

環境検討部会（第4回） 議事概要

1. 日時：平成30年1月29日（月） 10:00～12:00
2. 場所：道の駅思川 小山評定館
3. 議事概要

西清水川排水路、新荒川排水路における四季を通じた現地調査結果から、魚類（保全対象種）の移動及び水路利用状況について推察を行い、部会の合意を得た。

新荒川排水機場及び与良川排水機場の河川との接続部については、事務局から説明のあったとおり、本事業の改修対象外（既設利用）あり、地区外から侵入しにくい現況の環境を維持することとする。

分断箇所となる堰の改修において、維持管理が容易な魚道付き堰の整備も可能ではないかという意見については、魚類の移動及び水路利用状況から、堰上げによる分断期間のうち魚類が幹線排水路で過ごす期間は一部であること、季節に応じた移動により支線水路や水田等も利用し魚類に適した環境で生活できていること、規模の大きな支線水路との落差は解消する予定であることから、魚道付き堰の整備は行わないこととする。

新荒川排水路のワンドには、重機が進入可能なスロープをつくり、泥をかき出せるような構造にすること、ワンド脇に土砂置場を設置する。また、維持管理を考慮し、ワンド部を含め、底版はコンクリート施工とする。

また、粒度分析結果から曲線部などの流れが緩やかな箇所では堆砂は避けられない結果であったことについて報告した。

ワンドにはある程度、泥が堆積すると考えており、泥に依存する動植物の生息・生育環境として寄与するものと考えていること。ワンド部の堆砂については動植物の生息・生育環境としての機能を著しく喪失しない範囲においては許容する考えであること。完成イメージはモニタリングのなかで動植物の生息・生育状況を確認しつつ、地元関係者と形成・共有していく考えであることについて部会の合意を得た。

夏季、冬季の水温調査から、西清水川、新荒川、西部幹線において、夏季は水温が低く、冬季は水温が高い地点と、ナガエミクリの生育分布に一致する傾

向が確認された。湧水箇所は特定されていないが、本調査結果は環境配慮施設の位置選定、アンダードレーン等の対策計画に活用することとし、特定調査までは実施しない考えであるという方針で進めることとなった。

環境配慮施設の位置（箇所数）、期待する効果と形状について、事務局から説明のあった水系ネットワークの考察、湧水調査結果、ワークショップの結果を踏まえ、環境配慮施設の設置目的を、①排水路改修に伴う生息環境の激変緩和、②越冬場所の確保、③洪水時の退避場所の確保ということで部会の合意を得た。また以下の事項も部会の合意を得た。

○ワンド候補地は、西清水川及び新荒川排水路における越冬場と考えられる2地点とする。

（①新荒川排水路新荒川樋門上流部、②西清水川排水路上流部）

○ワンドには、堆砂等による排水路本線の排水機能を優先させるため隔壁を設置する。

○改修後、排水路本線は一定勾配となり、水深は浅く、流速は速くなるため、ワンドには、休息場・越冬場の確保のため、複数の魚種に対応した2段の深みを設ける。

○退避場・隠れ場の確保のため、ワンド部のほか、曲線部（つぶれ地等活用できる箇所）について井桁ブロック等で護岸する。なお、井桁ブロックはコンクリート擁壁等との組合せにより草刈等の維持管理に配慮した構造とする。

平成30年度において、新荒川排水路の最下流（一般区間）より工事着手することについて報告した。

アンダードレーン立ち上がり部の溝切の規模（幅、深さ）について、排水機能を阻害せず、ナガエミクリの生育場として機能すると考えられる2～3例を、各委員の意見を聞きながら検討することとなった。

検討した2～3例を試験的に設置し、効果を比較した上で、規模を決定することとなった。

環境配慮施設の具体的な設置位置、箇所数について、水路全体の計画として整理し、確認することとなった。

一般区間の排水路本線の詳細設計図についても確認することとなった。

直線区間では流れの変化が乏しくなると考えられるため、排水機能を確保しつつ、対応可能な環境配慮対策について検討することとなった。

地下水位観測調査については現在実施中で、調査結果の蓄積・整理等ができた段階で提示することとなった。また、整理にあたって田んぼの水張り状況との関係にも留意すべきとの意見があった。

新荒川排水路でのワンド設置後、継続的に植物の繁茂状況、生き物調査等を実施し、後年度の環境配慮対策（西清水川排水路のワンド計画）にフィードバックすることとなった。また、完成のイメージを地元関係者と形成・共有することとなった。

新荒川排水路のワンド計画について、間中地区でワークショップを実施し、ワンドの位置や形状について意見をもらった。今後、維持管理のあり方等をテーマとしたワークショップを実施する方針である。

合流工については、今後、詳細検討が進み、構造が明らかとなった段階で整理することとなった。